



Publishing house: 2-19-32Moriyama Kanazawa
JodoShinsyu Jhokoji Phone&Fax076-252-4922
www.jhokoji.net/ info@jhokoji.net 2021.07.01

どうか私が生まれた意味を教えてください

道因寺住職

相馬 豊

ご紹介いただきました白山市相川町にあります道因寺というお寺の住職をしております相馬豊と申します。よろしくお願ひします。昨年浄光寺さんの報恩講にご縁をいただきまして、今年の報恩講もご縁をいただいたわけですが、一年があつという間に終わつていったなと本当に短く感じています。

報恩講は親鸞聖人の遺徳を偲ぶ。

ただ遺徳を偲ぶだけでなく、親鸞聖人がその九十年の生涯で、事の重要性、重大さを人との交わりを通して、がら確認をしていかれた。そして、

私たちは宗祖親鸞聖人の言葉、在り方、生き方を道標として自身の在り方を確認していく。単に歴史的なことを訪ねるのでなくて、何を重要なこととして捉えていったかを自身自身に訪ねていく。それが出遇うという大切な意味を持っていると思

誕生

まず親鸞聖人という方を振り返ってみますと、誕生は一一七三

年。そしてお亡くなりになられたのが一二六二年です。今年で誕生されてどれだけの年数が経ったかという、誕生されて八四六年、亡くなられて七五七年。これだけの長い年数が経っています。

実際には私も親鸞聖人という方を直接お会いしたことはない。本堂にある親鸞聖人の絵像を見る。あるいは京都の真宗本廟で親鸞聖人の御真影ごしんねいを見る。そういうことを通して親鸞聖人はこういうお姿をされた方なのだと分かります。でも実際にその方の声を聞くということはありません。しかし、書き残された言葉が私たちに語りかけてくださる。また、亡くなつていかれた方からの声。その声は「お念仏を申してください」という声です。その声を受け継ぎ、伝えられ、今日までそのお念仏の教えが私たちの日常の隅々まで行き届いている。そのお念仏の教えを大事なことでして日々の生活を今も営んでいるのが私たちの暮らしです。

先輩たちから「お念仏を申せ」と言われた。そのお念仏を申せという

ことは、そこに何を訪ねてくださいと言っているかという、一つはこの誕生ということではないでしょうか。私たちにはそれぞれ誕生日があります。その誕生日に私たちは生まれてきました。しかし、この生まれてきましたということをもう一度いただき直しますと、確かに生まれて来たんですけど、そこには私たちは選べなかつたということがあります。まず、両親を選ぶことが出来ない。家というものも選ぶことが出来ない。あるいは国というものも選ぶことが出来ない。性別も選ぶことが出来ない。すると私たちは生まれてきたわけですが、その生まれてきたということをしていただき直してみると、自分の意志で選んだものは何一つないということ。自分の意志でこの日本という国に、この金沢という所に、そして男性に女性にと、何一つ選ぶことが出来なかつた。だから「生まれてきた」とこう

言いますけれども、言葉を変えますと、「生み落とされた」と言つてもよいのではないのでしょうか。この時代に、この社会に私たちが生み落と

された。

なんで僕を生んだんや

最近のことですが、ご門徒さんが晩にお寺に駆けつけて来られた。息子にこう言われたので、飛んでお寺に来ましたと。息子さんに何と言われたんですかと聞くと、

「なんで僕を生んだんや」

こういうことを息子に言われたが答えられず、誰に聞いていいものか分からず、お寺に飛び込んできましたと。全く予期せぬことを言われてしまった。

私たちも日常生活を振り返ると、どこかで同じように「なんで私を生んだんや」と、やっぱりこういうことも色んな出来事の中でありませぬ。「なんで生んだんや」と言われてもこれは分からない。分からない中に生まれてきました。しかし、ただ生まれてきたのではなく、人として生まれてきました。それがこの誕生とい

う大切な意味合いではないか。人間に生まれてきたという事の重大さ、重要性ですよ。そのことを生涯かかって色んな人との関わりの中で、人間として生まれてきたということ。は一体どういうことを訪ねていく。そういう課題を人に出会い、そして人から教えられて、そこに悩み、苦しみながら、その意味を生涯訪ねていかれた方が親鸞聖人という方だと私は思います。

そうすると私たちにとりましても、もう一度確かめなければならぬ原点、出発点、それは人してと生まれてきたということが本当にどういう意味を持っているのだろうかということ。実はそのことをこの報恩講という場の中で、お勤めを通して声を聞き、響を聞いてそのことに触れていくということが方向に示されているのではないのでしょうか。

どうか私が生まれてきた意味を教えてください

四年経ちましたけど、ご門徒さん

で四つ上の先輩の方でした。その方は「仕事が生きていけます、仕事が好きです」と言われている先輩でした。しかし、朝です、勤務先に向かう途中に、今まで味わったことのない激痛に襲われた。これはちよつとおかしいなと、まず近くの病院で診察を受けました。そこでは痛み止めの点滴だけをして、紹介状を書くからすぐに大きな病院へ行って検査を受けてくださいと。そして大きな病院

主治医になられた先生から家族の人へ病名を告げられました。「年内いっぱいしか持ちませぬ。末期のすい臓がんです」と。発覚したのが十月十六日でした。その後、連れ合いの方から私の携帯電話に連絡がありまして、主人がどうしても住職と話をしたいと言っているから病室に訪ねてきてくれませんかということを言われていました。

それで病院へ訪ねて行った。私の顔見て出てきた第一声の言葉が、「住職、末期のすい臓がんだと言われて、命がもうないということも宣告されました」と。まずそう教えてくれました。そして、妻に売店で買ってきてもらったノートに毎日、今日までの生き続けてきた人としての歩みを振り返りながら、そのノートにペンを走らせていたそうです。楽しい思いや、嬉しかったことが本来なら自分の記憶に残っているはずなのに、いざペンを持ってノートに一文、一文を書き書いてみると、ひとつも楽しかったこと、嬉しかったことが出てこないんです。逆にペンを



くと、今まで自分が仕事上で失敗したこと、後悔したこと、あるいは悔いが残っていること、そういうことばっかりが次から次へと出てきますと。そして、「そのノートを見てください」と私に手渡された。そのノートのページをめくっていくと、本当にその通りなんです。仕事上の失敗、あの時こういう風にしておけば失敗しなかったのにと。色んな後悔の念、それに伴う謝罪の言葉、いろんな言葉がそこに書かれていました。

それを読みながらですね、病院のベッドで少し体を起こされた状態でこう言う風に私にたずねてきました。

「住職、私が生まれてきたのは苦しい思いや苦しい思いをするために生まれてきたんでしょうかね。どうか私が生まれてきた意味を教えてください」

こういうことを突然言われました。それまでは仕事が一番。仕事が好きです。仕事、仕事というかたちで働いて、がむしゃらに仕事に向き

合った方が初めて自分の存在、命そのものも存在の深さに触れた時、改めて「教えてください」と。なぜ私は苦しい思いや苦しい思いをするために生まれてきたのでしょうか。どうか私の生まれてきた意味を教えてください。こういうことを初めてたずねられました。

その言葉を聞いた時、最初は何を先輩に語りかけていいのかも分からず、言葉も出てきませんでした。でもずっと私の言葉を待っているんですね。何を言ってくれるんだろうと、ずっと私の顔を見ている。見られている私の方は、正直言いますと、今でも覚えていません。早く看護師の方が部屋に入ってきてくれないかな、家族の方が来てくれないかな、あるいは親戚や友人の方がお見舞いに来てくれたらその隙に私は逃げ帰れるのに。こういうことを思っておりました。でもそういう時って誰も部屋に入ってきてきません。こちらの予定が全部崩れていき、ずっと見られている。何かそういう中で、私自身も何か言わなければならぬ。何を言おうか、いろんなことを思いながらも

言葉にならない。そういう中で別に深く考えたわけでもありませんし、こういうことを言おうとして言葉を選んだわけでもない。咄嗟に出してしまった言葉は今でもはつきり覚えています。

その言葉はこういう言葉です。

「今言われた苦しい思いや苦しい思いのその一つ一つがあなただの尊い人生そのものでなかったですか」

こういうことを言いました。それまで私の顔を見ていた先輩がですね、その私の声を聞いた途端に顔を逸らせて病室の窓から外をずっと見ています。嫌な沈黙ですね。その沈黙、どれだけ続いたのかわかりません。その沈黙の中で病室の窓から外を見ながら言われた言葉も鮮明に覚えていきます。一言です。

「そうですよね」

という一言。また沈黙です。それで私ももう耐えきれなくなつて、「今日

はこれで帰ります」と言つて病室を後にしました。その時も先輩は私の顔を見ることなく、外だけ見ていました。その後二回、病室を訪ねましたけれど、もう既に昏睡状態でした。だから話せる状態ではないので全く会話ができません。ただ酸素マスクを付け、点滴を受けているその姿を見ていただけです。だから本当にその先輩と最後に交わした言葉が今申した言葉です。でも、今でもそのことが本当に良かったんだろうかというところが自分の中にあります。これで本当に良かったのだろうか、もつと別の言葉遣いがあったのではないかと、なぜ先輩は外をずっと見て「そうですよね」と言ったのだろうか。色んなことが私の中で今も渦巻いています。正しかったのか、間違っていたのかも分からない。ただもつと別の言い方があったかな、そういうことだけ思います。

慶讃法要テーマ

そういうことを思い出していた時

にです、今年の七月に東本願寺で
こういう発表があった。五年後は親
鸞聖人のご誕生、八百五十年。そし
て浄土真宗が立教開宗して八百年。
その慶讃法要が真宗本廟、東本願寺
で二〇二三年四月に勤まることが発
表されました。そしてその慶讃法要

を迎えようとしたときに、単に一つ
の御誕生八百五十年、浄土真宗立教
開宗八百年の御仏事ではなくて、こ
ういうことを日本という国や世界の
国々へ発信しようというかたちで一
つの言葉が七月に発表されました。

そこにこういう言葉が冒頭に出て
きました。「南無阿弥陀仏」と。私
たちも平生口にする「なむあみだぶ
つ」この六字のお言葉、単なる単語
でもないし、「なんまんだぶ」とい
う単なる発音でもない。この南無阿
弥陀仏は何かという教えの言葉で
す。仏さんからの願いが掛けられ
ているお言葉と言っているでしょう。

その「南無阿弥陀仏」という言葉
が冒頭に出て、続けて「人と生まれ
てこの意味をたずねていこう」。こ
れが二〇二三年の親鸞聖人のご誕生
八百五十年、浄土真宗が立教開宗し

て八百年のテーマです。あと五年後
です。その五年という歳月を通して
改めてこの時代社会を生きている私
たちにとって訪ねていこう。こうい
う言葉が発信されました。

そうすると、ただ単に訪ねてい
こうということをしていっているわけ
ではない。やっぱりこういう言葉が発
信されたということは、ただこうい
う言葉にしようというのではなくて、
私たちが今一番大事なこと

が欠け落ちていっているからこうい
う言葉が生まれてきたのしょう。私
たちが生きているこの時代、社会の中
に今一番欠けているのは何ですか？
の中で、見えてきた言葉の一つが「南
無阿弥陀仏」と生まれきた意味を
たずねていこう」ということです。

このことが七月に発表された時
に、すぐ私の脳裏に浮かんだのが、
先ほど申しました先輩の言葉でし
た。「苦しい思いや苦ししい思いをす
るために私は生まれてきたのしょう
か。どうか生まれてきた意味を教え
てください」。それまでは仕事が生き

ることだと思っていた。しかし、仕
事が出来なくなると余命いくばくも
ない現実に触れた時、仕事だけでは
私が生まれてきたこととはならない
のではないか。どうか教えてください
。ここに初めて問いというものに
気づかれた。これ非常に大事なこと
ではないでしょうか。

私たちは仕事や家庭のために生き
てきたのではなく、なんで生きてい
るんであろうか。順調に生きている
ときはそのことが見えなかった。逆
にどん底に落ちた時、仕事と思っ
ていたものが崩れ去った時、改めて自
分の歩みを振り返ってみると、喜び
や嬉しさもあるはずなのに一言も出
てきません。仕事上の失敗、苦し
さ、後悔、そういうことがノートに
書かれた。一人病院のベッドで振り
返りながら、私は苦しい思いや苦し
い思いをするために生まれてきたの
か、それを誰かに聞きたい。そし
て私が呼ばれたわけです。



〓慶讃テーマ

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの

意味をたずねていこう

私たちはどうでしょうかね。生まれてきたことの重大さを、重要性を持っているんだということを意識しながら、または確認しながら生活をしているでしょうか。何かいつの間にかにですね、当たり前はなっていないかもしれませんか。いつの間にか人と生まれたことが当然の様に思い、人間であることも当然の様に思っている。別の意味を訪ねようとする歩みもどこかで忘れていたのかもしれない。そういう現状です。

今だけ、私だけ、お金だけ

今の私たちが身を置いている社会は何を今私たちに突き付けているかというと、一つは「今だけ、私だけ、お金だけ」。こういう風潮を目にしませんか。なにか私たちがいる社会全体にこういうことが蔓延しているような気がします。

生まれて、どうせ死んでいくんだから、生きて今だけを愉快に楽しく過ごせばいい。「今だけ」。その中心は誰か？私や私の家族だけが愉

快な人生を歩めばいい。「私だけ」。

そして、それを成すのは経済、お金。それが大事。「お金だけ」。だからいつの間にか私たちは「今だけ、私だけ、お金だけ」を大事なことで生きている。その根底にあることが、いつの間にか忘れられたということですよ。人と生まれたことを訪ねる機会もないし、聞くということもない。ただ刹那刹那に楽しく愉快に過ごしていくというそういう人生で終わっていくのか、そのことに親鸞聖人は疑問を持たれた。そうではないはず、人に生まれてきたということはいかに重要なことなのか、そのことを私たちにその生涯をかけて問いかけられた。

だからこの二〇二三年のご誕生八百五十年、浄土真宗開宗八百年、このことを私たちがどのように受け止めていくかといったら、「南無阿彌陀仏」という教えの言葉を通して、もう一度「今だけ、私だけ、金だけ」と現実の中で忘れられている人と生まれた意味を教えるに聞かせていませんか。そのことを通して親鸞聖人と出会う。その言葉を通して自分自身

に出遇っていった欲しい。そういう願いの言葉でないかと思えます。

またそのことが先輩が亡くなる時に初めて自分に見出された問いでもあった。先輩の言葉がですね、今回の慶讃法要のテーマとしてですね、私にもう一度大事なことで語りかけてくれました。

ボーッと生きてるんじゃないよ！

そのことを踏まえながら、もう一つこのことを分かりやすく問いかけてくださった方がいます。これは皆さんもきくと見ている番組です。毎週金曜日の午後の七時五十七分、そして再放送が土曜日の八時十五分

から。土曜日なら朝の連続テレビ小説が終わった後です。番組の冒頭は「チ」がきます。「チコちゃんに叱られる」見たことないですか？ありますね。私も大好きです。

その番組でチコちゃんがこういう質問をしました。「大人になるとどうして一日が短く感じるのですか？」こういう質問を出しました。

私はドキッとしました。なぜなら私も一日が短いのです。朝起きたと

思ったらもう夕方になっています。それで布団に入った瞬間、「やれやれ」とこんな調子です。本当に一日が早く過ぎていく。だからこの質問を聞いた時、自分で自分に問い返してみました。

そして、番組の進行を見ておりましたら、街のインタビュで男性の方、女性の方々がこの質問に対して答えていました。中には私が思い描いた言葉と同じようなことを言われている男性の方もいました。

そのインタビューが終わってスタジオに画面が変わって、メイン司会である岡村さんとタレントの方にもう一度この質問をしました。そうすると岡村さんたちは自分で思われたことをおのおの話されました。ところが聞いているチコちゃんはだんだん顔付が険しくなり、遂に、決め台詞の「ボーッと生きてるんじゃないよ！」、ああ、言われてしまった。私の思っていたことも違いました。私もボーッと生きてしまっているようです。



そしてチコちゃんは知っている
と。さてチコちゃん、何と答えたで
しょう。なぜ大人になると一日が短
く感じるのですか？「大人になると
ときめきが無くなるからです。」と。
ワクワク、ドキドキ。感動。今日、
一時三十分からの勤行でお勤めの声
を聞こえてきました。聞きながら控
室にいたわけですけど、どうでしょ
う、皆さんこの声聞いてワクワク、

ドキドキ、感動されたでしょうか。
本来ならときめくはずですよ、お寺
さんの声を聞いて、親鸞聖人のお言
葉を聞いたらときめくはずですよ。
でもしときめきがなかったら、なぜ
でしょう。何でときめかなくなった
のでしょうか。ときめかないというこ
とは、裏を返せば鈍感になったと
いうことです。じゃあなぜ鈍感に
なったのでしょうか。理由があるわ
けです。

ときめかない、鈍感になるという
ことには理由があります。それは
そんなに難しいことではないです
よ。「365日×年齢」です。

私は今、六十二歳です。「365
×62＝22630日」です。百歳
の方は、36500日です。そうす
ると、今日お越しの方は大体、この
間でないでしょうか。帰られてから
「365×自分の年齢」を打ち込ん
でみてください。そうしたら日数が
出てきます。生きてきた日数です。
自分で計算してみてびっくりしまし
た。まさか22630日も生きてい
ると思いませんでした。計算して
みてこれだけの数字が出てきて驚き

ました。これだけ生きてきたんやな。

22630日も生きてきたら、確
かに鈍感になります。なぜ鈍感にな
るかというと、慣れっこです。習慣
付けないんです。当たり前になるん
です。当たり前になればなるほど、そ
のことに深く物事を訪ねていかに
なる。分かったつもりになる。もう
解決したつもりになる。だから私た
ちも「人として生まれたことの意味
をたずねていこう」と言われても、
そんなんもう分かっている。いつの
間にかこうなっているのです。では
本当に分かっているのですか？と突
き詰めても何も分からない。分かっ
たふりをするんですよ。

なぜ私が生まれてきたのか？と言
われても分からないし、また赤ん坊
であったことも忘れていきますから、
なぜ生まれてきたのかも分からない。
そうすると私たちもこれだけの日数
を生き続けていると分かったふりに
なるわけです。でも実際なにも分かっ
ていない。何も分かっているから
こそもう一度訪ねてみる。

アンパンマンマーチ

別にこれはこの二〇二三年の慶讃
法要だけのことではない。例えば作
詞家の「やなせたかし」さんという
方がおられます。これは皆さんのお
うちのお孫さんやひ孫さんが大好き
なアニメーションのテレビ番組、人
気番組の一つである「アンパンマン」
というアニメーションがある。その
主題歌「アンパンマンマーチ」を作
詞された方です。このやなせさんが
アンパンマンマーチの中に、こんな
言葉を盛り込んでいます。

なんのために生まれ

なにをして生きるのか

こたえられないなんて

そんなのは、いやだ！

「アンパンマンマーチ」

やなせたかし

やなせさんが同じ様なことを言っ
ているのです。何のために生まれ、
何しに生きているのか、私たちも考
えますね。

私たちは何しに生まれてきたかと

いえば、ほとんどの方はこう言うのではないでしょう。それは幸せになるため、豊かな人生を送るため。そのために生まれ、一生懸命働いて財を成して、幸せと豊かな人生を手に入れる。それが私の生まれてきた意味でしょう。そういう風に答えるのではないのでしょうか。

しかし、そのことを親鸞聖人はちよつと待ちなさいよと言いました。確かに、幸せを求めするために歩んでいこう、豊かな人生を送っていこう、大切なことかもしれないけれども、しかしそこには落とし穴がありますよ。それを親鸞聖人は『涅槃経』という經典の言葉を引用されました。

凡夫の樂は無常敗壞なり

『教行信証』真仏土巻

こういう言葉で私たちに落とし穴ということを教えてくれた。ただひとつ、凡夫の私たちが追い求めている幸せや豊かな人生は、無常の樂です。長続きしないということです。それは私たちも味わってきたことで

す。いつまでも一緒に暮らしていたと思つた両親、祖父母、連れ合い、我が子、何らかの理由でずつと居ることができない。愛しい人と別れていかなければならない苦しみ。

それは今回の台風十九号もそうですね。日に日に不明者の数が減ってきて、亡くなった人の数が増えて、今七十数名が出てきました。その尊い命が奪われた。そんなこと願つたわけでもないし、そういう風になるとも思わない。だから私たちが求めているものがいつ崩れていくのか分からない。

私たちが訃報に触れた時、驚いた時に使う言葉が、まさかあの人が、「まさか」と。まさかあの人が亡くなると思つていませんでした。「まさか」が出てしまう。「まさか」が出るといことは、続くと思つているからです。でも続かないから「まさか」なんです。

「敗壞」、漢字の如く「はいえ」と読みますけれど、敗れ壊れている。今回の台風で川沿いに建つていた家が台風で川に流れていく。何遍も報道された。別所温泉を結ぶ鉄橋が無

残にも落ちていく。あるいは金沢の経済を支えていた新幹線がまさか長野で水に浸かった。まさか十両も水没するとは思つていなかった。

私たちは幸せな人生を求めているけれど、それはいつまでも長続きしないし、やはり壊れていくものです。当てにならないものを当てにしているのではないのでしょうか。

苦悩する存在

そうするとその豊かで幸せな人生を支える根底はなんですか。それはここへ戻るしかない。なんで生まれてきたのでしょうか。生まれてきたということは、大事な意味を持つているのだ。人に生まれてきただけではなくて、そこには苦悩しなければならぬということを抱えている。ただ生まれ喜んでいただけでなく人間に生まれてきたからこそ出会わなければならぬ苦悩がある。それを人間というのでしょうか。苦悩する存在が人間なのです。ところが私たちは、その苦悩を取り除こうとする

のです。幸せを求めから苦悩だけは嫌だと。苦悩するからこそ人間なのです。

その苦悩を教えてくれたのは先輩の一言でした。豊かな人生、仕事というものに幸せを求めていったけど、まさか自分が末期のすい臓がんになるとは思つていない。そして宣告されたのが余命一か月半。年を越せないという現実。初めて自分が求めていたものが崩れ去つた時、原点に帰るしかなかった。私が生まれ



てきたのは苦しい思いをするために
生まれてきたんでしょかね。私が
生まれてきたのはどうということな
か、どうか教えてください。初めて
自分の存在が問いになった。そこ
はじめて自分と自分を支えてくれ
たのちそのものと出遇っていった。
原点、出発点に帰っていく。それが
一番大きなことだと思います。

蓮如上人は『御文』の一帖目第
十一通の冒頭でこう語りかけられ
ます。

それおもんみれば、人間はた
だ電光朝露ちやうろうの、ゆめまぼろしの
あいだのたのしみぞかし。たと
いまた栄花えいがい栄耀えいようにふけりて、お
もうさまのことなりという
も、それはただ五十年なひし乃至百年
のうちのことなり

『御文』一帖第十一通

深く人間というものを見ていけば
電光朝露。これもしてきました、あ
れもしてきました、みんな色んなこ
とに出会い、色んなことをしてきた。

しかし、夢幻の楽しみ。

私たちは、新聞の訃報欄で亡く
なった方のお名前、年齢、住所を一
人一人、毎日確かめるわけでしょう。
男性女性を問わず、年齢もまちまち
の方がみんな夢、幻の如く、栄華
耀、おもうさまのことなりをなして
亡くなっていく。

生まれてきたということは、同時
に死すべきものが生まれてきたとい
うことです。私たち一人一人が死す
べき者である。同時に苦悩を抱えな
がら生きなければならぬ存在。だ
からこそ生まれてきたということが
いかに重要で重大であるかというこ
とですよ。このことに立ち返って
れよと。もう一度ここに改めて人に
生まれてきたということをお互いに
訪ねていきましょう。どこに？教え
に。南無阿弥陀仏に。

お念仏を申してください

この報恩講もそうなんです。報恩
講に出遇うということは、日常生
活の中でいつの間にか忘れていたこ

と、見失っていたこと、私の原点を
もう一度、親鸞聖人の声となったお
勤めを通して確かめていく。先に亡
くなっていかれた方は繰り返し、繰
り返し「お念仏を申してください」
と言ったのでしよう。どうかお念仏
を申せということは、自分に出遇っ
てくれよということなのです。自分
に出遇うことは自分では出来ないの
ですよ。人に出会い、その人の語る
言葉に出会うことによって自分の愚
かさであり、恥ずかしさに気づいて
いく。この報恩講の意味とご誕生
八百五十年、立教八百年の慶讃法要
のテーマ、その根底は一つなのです。

このことひとつをどうか大切に
してくれ、このことひとつを生涯かか
つて訪ねてくれと声となつて、ご門徒
や先輩が自ら命を終えていく前に私
に大事なことを教えてくれた。苦し
しい、苦しい思いをするために私は
生まれてきたのでしょうか。ここで
すよね、どうか私が生まれた意味を
教えてください。無常敗壞の現実
の中にあつてもう一度生まれてきた
意味を教えてください。何かそこに

私たちが訪ねていかなければなら
ない出発点、原点が、その先輩の声を
通し、報恩講を通して、今私に人
として生まれてきた意味を訪ねて
くれる報恩講がまさに今日始まった
のではないかと思います。本日はど
うもありがとうございます。

《編集後記》

◇本文は令和元年十月十七日、浄光寺「報
恩講」大連夜の法話録であります。洵まことに
勝手ながら紙片の都合上、割愛、編集さ
せていただきました。

行事のご案内

「追弔会」

日・令和三年八月十三日(金)

時・午前十時

法話・細川公英師(順教寺住職)

「きこまいけ」(当寺聞法会)

毎月二十八日・午後二時

みんなで『正信偈』に学ん
でいます。みなさまのご参
加をお待ちしております。